

今、気高がめざすもの

1 教育の目的

- I 新しい時代に対応できる学力の形成を図り、創造的な能力の啓発に努め、国家及び社会の形成者としての資質を養う。
- II 心身を鍛え、豊かな情操と協同の精神を培い、個性の伸長を図る。
- III 地域の自然や文化を尊び、国際的視野に立ち、志の実現を自ら目指し学び続ける人材を育成する。

2 めざす生徒像

健全な心身と地域愛・国際的視野を持って、新しい時代に対応できる学力と創造的能力を発揮し、志の実現に向けて積極的に行動できる自立した生徒

3 教育の目標

(身に付けたい力)

- ① 健康・体力 ... たくましく生きるうえでの健康と体力
- ② 豊かな人間性 ... 達成感を重ねて自信をつけること、他者を思いやり協調する力、感動する心
- ③ 確かな学力 = グローバル・リテラシー
 - A 思考力
 - ・批判的思考力・科学的思考力 ... 物事を鵜呑みにせず「なぜ」と考える習慣。客観的に分析する習慣
 - ・総合的思考力・未来思考力 ... オリジナルを追究する構え。課題を解決する方法を創造する力。シミュレーションして計画する力
 - B コミュニケーション力
 - ・語学力 ... 日本語および英語で表現する力
 - ・言語的コミュニケーション力 ... 自分を言語で発信し、他者を傾聴して、積極的にコミュニケーションを行う力
 - ・情報活用力 ... 情報を主体的に活用する力
 - C 多様性・協働性・行動力
 - ・多様性 ... 日本文化、自然や社会のシステムの多様性を理解し、尊重する力
 - ・協働性 ... 他者の間に納得解を導き出す力
 - ・行動力 ... 自分の考えに基づき、行動する力
 - D 志 ... 社会で果たしたい役割から考える自分の未来像
 - E グローバル視野 ... 地域を忘れずに、グローバルに考える習慣

4 S G H事業

本校のSGH事業は、上記「③ 確かな学力 = グローバル・リテラシー」の育成をめざすもので、右図に示すように、2つのプログラムと3つのアプローチから成ります。

協働型学習プログラム

- AL型、協働型学習
学びの質を高め授業、英語教育
- 課題研究活動
地域社会研究、課題研究 I II
- 創造類型の設置

東日本大震災復興プログラム

- 志教育 探求型進路学習
- 防災教育
防災チームとリーダーの養成
- 地方創生学習
気仙沼市との連携

○スモールステップ・アプローチ

教科横断的・段階的なリテラシー育成

○ダイレクターニング・アプローチ

本物からの学び・人からの学び・各種連携からの学び

○教員専門性開発・アプローチ

AL指導法、学習評価法、カリキュラム・マネジメント

5 何のために取り組むのか？

○ 気高生が未来社会を生き抜くために

地域と世界とが情報によって直結し、変化の加速度を増す社会を、逞しく豊かに生きる基礎力を育てます。その基礎力を、知識・技能に偏重させず「グローバル・リテラシー」と定め、その養成において「地域を起点とするグローバル視野の形成」を重視します。

○ 気高生の学びのスイッチONのために

学ぶことを、できないと諦めていたことができるようになること、昨日までは思いもよらない新たな方法で問題を解決できるようになること、即ち、自分を変える営みととらえます。このような本質的な学びは、受け身ではなく、自ら主体的に学ぼうとする人において実現するです。

一方、学びを「A. 知識を獲得する学び（理解と記憶を主とする学習）」と「B. 知識を活用して思考する学び（思考力や意欲を持って課題解決を図る学習）」に分けて考えたとき、習得した知識が課題解決に寄与し（A→B）、また課題解決に取り組む中で新しい深い知識の習得ができます（B→A）。つまり、AとBは相互に強め合って循環しながら、学びの質を高めていくのです。本校は、授業でA→Bを、課題研究活動等の多くの知識活用機会でもB→Aを進め、循環する学びのスイッチをONにし、学びに向かう力を高め、主体的な学習へと発展させようとするものです。

○ 変わる高校教育や大学入試にいち早く対応するために

平成34年度から実施される新学習指導要領は、社会の急速な変化に対応するため、各教科等の知識だけではなく、その知識を活用しながら思考・判断・表現する力や、そのような力を身に付けるために学びに向かう力の養成を求めています。それに先だって、平成32年度から現在のセンター試験に替わる「大学入学共通テスト（仮称）」が導入されます。また、個別の大学入試はすでに変化してきており、国公立大で高校時の実績を重視する推薦・AO入試の定員の拡大、思考力を重視する一般入試問題の増加等が進んでいます。本校の取組は、それらの変化に先んじて対応するものになります。

○ 被災地の今でしかできない学びのために

高校生の震災被災年齢は年々低下し、今年の1年生は小学校4年生の時の被災です。気高生には震災時の辛く苦い記憶とともに、その記憶の裏返しとしての社会貢献意欲があります。被災地の今でしかできない学びがあります。震災経験を負の遺産から正の財産へと転化させる学びです。社会で果たしたい役割の面から自らの進路を設計するキャリア学習である「志教育」及び発災時の行動力に資する自律的思考力と協働による防災チームを育てる「防災学習」に取り組みます。

○ 気仙沼でしかできない学び

気仙沼市内の学校は、ESDに基づくユネスコスクール活動と国際交流を進めています。自然や社会をシステムとして理解し、その多様性を認め、公正な思考ができる発達段階となる高校生が、その牽引役となって小・中・高校を通した一貫性ある人材育成が可能です。ESDの発想を生かし発展させる「海を素材とする教育」に取り組みます。